

講演会資料~3年生を送る会~ (1995, 12, 23PM1:30~米子西高校)

演題 「挑戦」

1. 挑戦の意義

何故物事に挑戦して行くか。

よく大会などに参加するときに聞く言葉で「参加することに意義がある」というのがある。これは正しいかどうか。この境界線を引くには競技そのものが自分にとって、チームにとって（遊び）であるか（スポーツ）であるかということである。最近スポーツの要素にはあそびが少なすぎるということも問題になっているが、正確に言うと遊びスポーツか競技スポーツかということである。このようにレベルによっても違いがある。その人自身の価値観によって違いが出て来る。ゴルフ雑誌のある欄にジャンボ尾崎と堀内孝雄の会話が載っていました。堀内のゴルフの腕前に感心したジャンボは「もうそろそろゴルフをスポーツとしてやった方がいいんじゃないかな」と言ったそうです。草野球の外野手を例にとってその人が、草野球を遊びとして捕らえていればその人は自分のファインプレーを目指しているのである。もしその人が草野球をスポーツだと捕らえていればその人が目指しているものは、プレーを見ている人全員がファインプレーだと認めるようなプレーを目指しているのである。そこには見ている人に感動を与えるようなことも出来るであろうし、勇気を与えることも出来るのではないか。もちろん個人の自由で人それぞれなのですが、

私達の目指すのはあくまでも競技スポーツである以上「参加すること」だけでは決して意義はないものであると考える。参加してその過程なり結果なりが必ず今後の活動に生きてこなければ意義はないということである。試合で負けたのならば、なぜ勝てなかつたのかを考えるが大切。次に勝つためにはどう取り組んで行けば良いのかを考える。そして実行する。何も考えずに今までどうりの練習を実行しているのであれば結果も恐らく同じであろう。もし自分がより

以上のものを求めるならば、より向上しようとするならば、そのための練習であるとか日常の生活は変化して行かなければならない。目標達成のために自分自身の考え方や活動が確実に変化して行かなければならぬ。ここに初めて意義が見えて来るのだと思う。参加することによって自分自身が確実に向上していく（つまり成長していく）というような変化があるときに意義がある。ということ。簡単ではあるがこのような考え方で物事に取り組まなければ、弱くなることはあっても、決して強くなることは出来ない。（技、心、体）また、そうすることによって人に感動を与えることが出来るし、勇気を与えることが出来るのである。こんな素晴らしいことに今私達は取り組んでいるのである。もちろん君達も取り組んで来たことだと思います。本当に幸せものだと思います。

このような心構えで物事に取り組まなければ何にもなりません。このこころ・姿勢がまず大事である。挑戦するうえにおいては必ず必要なことになって来ます。

《常松友美の話し》

常松友美
さだまつ ゆめみ
↑
筆跡

「試合に出るんだ」という気持ち、思いが強ければ強いほど失敗・成功は関係なく感動することは大きくなっています。

「勝ちたい」という思い、これがなければ勝つことはできないでしょう。

そして、もう一つの条件。自分の力量を知ること。これは自分を大切にするという思いにつながって来るものだと思います。自分を把握して考えて行動する。これは競技者たるもの非常に大切なことだと心しておかなければなりません。何故なら、自分のペースにかかるわって来るからです。自分の「流れ」を作るときに自分の力量が分からなければ作ることは出来ません。つまり、相手のペースで試合をするということです。他人によって自分の流れが左右さ

れてしまう時ほど、つまらない試合はありません。「あせり」「不安」などを感じるのはこのような状態になっているからであると思います。

《駅伝のたとえ》

選手は任せられた区間の中間点までは自分のペースで走ることを心がける。残りの半分で勝負に出るかが問題で、つまりペースを上げるか、飛ばさないで維持するかを決めるという。自分自身の体調を知り尽くしていなければこの判断が出来ない。まして、自分ひとりレースではないのだから、判断が間違えば大ブレーキにつながるであろうし正しければチームへの勝利へつながるのである。そういうチーム全体の問題になって來るのである。だから自分の力量を知り流れを作れる選手でなければならない。

《富山での失敗》

《その後の練習》鳥取IHに向けて

- ・集中力を高める。
- ・流れを作る。

個人的技能で勝敗が決まる個人スポーツでは自分の力量を知る事は非常に大きなポイントになって来ます。では集団スポーツではどうでしょうか。自分の力量を知ることは必ず必要ですが、チームメイトの力量も知る必要があります。これが「思いやり」につながって来ます。ちなみに私は個人スポーツである飛込競技を選手には集団スポーツであるという考え方で指導しています。競技であ